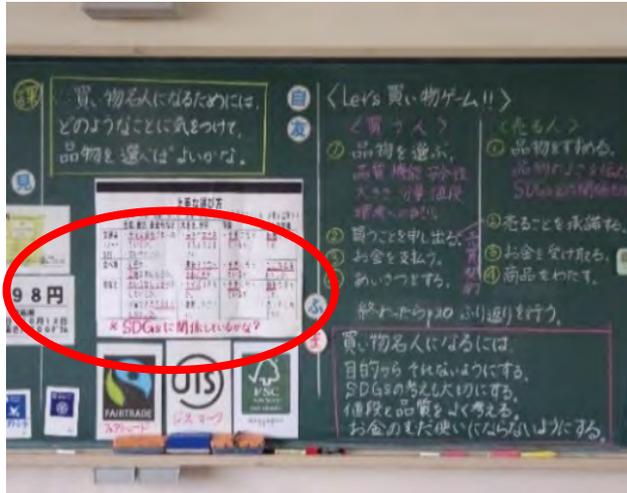
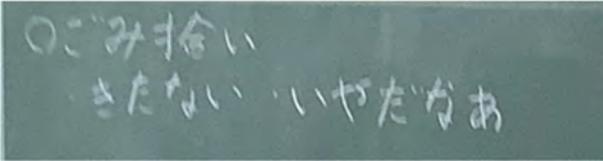
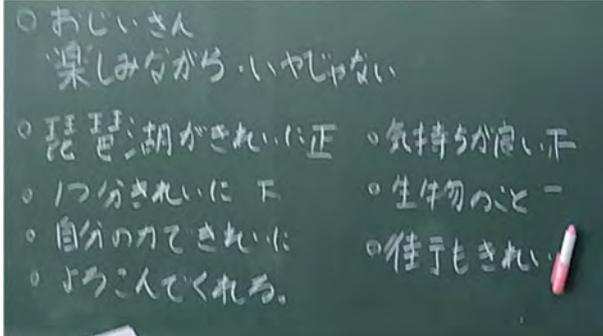
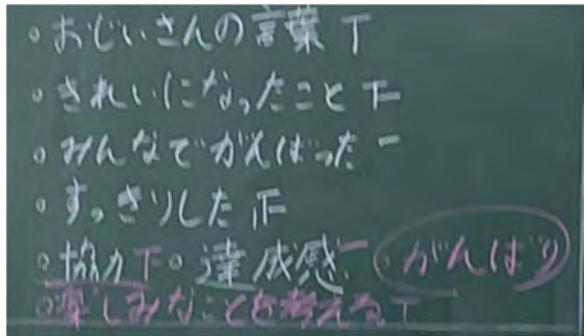
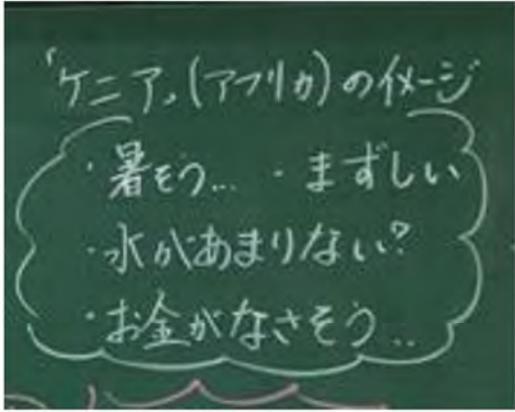


単元名	持続可能な暮らしへ 物やお金の使い方	
対象校種	<input checked="" type="checkbox"/> 小学校 <input type="checkbox"/> 中学校 <input type="checkbox"/> 高等学校 <input type="checkbox"/> 特別支援学校	家庭科
教科の目標	限りあるものや金銭が大切であることや、自分の消費生活が身近な環境に与える影響を考え、持続可能な社会の構築に向けて、主体的に生活を工夫できる消費者としての素地を育てる。	
実践の様子	<p>①食品を選ぶ視点を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・賞味期限 ・消費期限 ・生か冷凍か ・サイズや量 ・国内産か外国産か ・割引 	
	<p>②多くの食材から、食品を選ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに、指定されたカレーの材料やバーベキューの材料、味噌汁の材料を選ぶ。 	
	<p>③グループごとに、食品をどんな視点で選んだか、SDGsのどの目標につながるかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・賞味期限の近いものを選ぶ →食品ロスを減らす 1 貧困をなくそう 2 飢餓をゼロに ・無農薬の野菜を選ぶ →健康を考えて 3 すべての人に健康と福祉を 15 陸の豊かさを守ろう 	<p>【グループで選んだ視点について考える】</p>
	<p>④グループごとに発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選んだ食品 ・選んだ理由 ・SDGsのどの目標につながっているか。 	
	<p>⑤『じゅんぴはいいかい？名もなきこざるとエシカルな冒険』を読み、フェアトレードとエシカル消費について学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どこでどんな人たちが作っているのか、つながりを考えて買い物をする必要がある。 ・消費＝社会問題を解決する力がある（投票することと同じ） <p>⑥これからどんなことに気をつけて買い物をしていきたいか、気付いたことや感想を書いて発表する。</p>	<p>【グループで発表する】</p>  <p>【授業終了後の板書】</p>

単元名	「持続可能な暮らしへ 物やお金の使い方」
対象校種	<input checked="" type="checkbox"/> 小学校 <input type="checkbox"/> 中学校 <input type="checkbox"/> 高等学校 <input type="checkbox"/> 特別支援学校 家庭科
教科の目標ねらい	物や金銭の使い方と買い物について、「持続可能な社会の構築」などの視点から、課題をもって、基礎的・基本的な知識及び技能を身につけ、消費者として、物の選び方、買い方、使い方を考え、工夫することができる。
実践の様子	<p>① 買い物に必要な情報を収集、整理し、目的に合った商品を選ぶ活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的や状況を設定し、野菜を買うシミュレーションを行った。SDGsカードは、授業中、常に掲示し、SDGsの視点で商品を選べるようにした。 ・選ぶときは、材料がどこから来たものなのか、買った食材を無駄なく食べられるか、食品ロスなどの問題に触れ、考えることができた。  <p>② 買い物ゲームについて(服,お菓子,文房具を買ったり売ったりするならば,どのようなことに気をつけるか考える。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGs カードだけではなく、上手な物の選び方を具体的に提示し、SDGs の視点で物を選ぶということがどういふことなのかを捉えやすくした。 ・商品のよさを伝えるときに、お店屋さん役の児童が、SDGs カードを活用して、商品を勧めることができた。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>服屋:高価だが良質な物(長持ちする), リサイクル製品等 お菓子屋:地元の食材を使っている,フェアトレード製品等 文房具店:環境に配慮した製品,高価だが丈夫な物(長持ちする)等</p> </div>

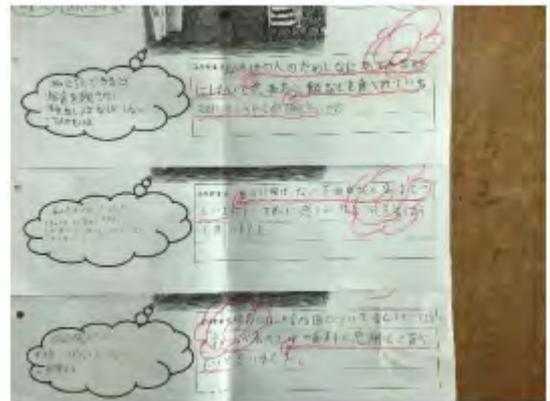
単元名	琵琶湖のごみ拾い	
対象校種	<input checked="" type="checkbox"/> 小学校 <input type="checkbox"/> 中学校 <input type="checkbox"/> 高等学校 <input type="checkbox"/> 特別支援学校	道徳
教科の目標	琵琶湖のごみ拾いをしているおじいさんの話を聞き、自分もごみ拾いをするようになったすみ太の姿を通して、気持ちよく働くために大切なことについて考えさせ、みんなと働くことに喜びを感じ、進んで働こうとする実践意欲と態度を育てる。	
実践の様子	<p>① あなたは、気持ちよく働いていますか。 児童の反応 ・係活動で自分から進んで活動している。 ・家庭での手伝いで、お風呂掃除をしている。</p> <p>② 琵琶湖のごみについてすみ太はどう思っているか。</p>  <p>③ ごみを拾うことを「いやじゃない」と言ったことに対しておじいさんはどう思っているか。</p>  <p>④ すみ太やみんなは、ごみを拾って、どうして気持ちよくなったのだと思うか。</p>  <p>⑤ 今回の題材では、SDGsのどのテーマと関連しているか考える。子どもたちに問いかけ、関連している物を張り出した。</p> <p>児童の反応 ・住みやすい町作りは関係している。 ・水に関係しているから海の環境を守ろうは関連している。</p> 	

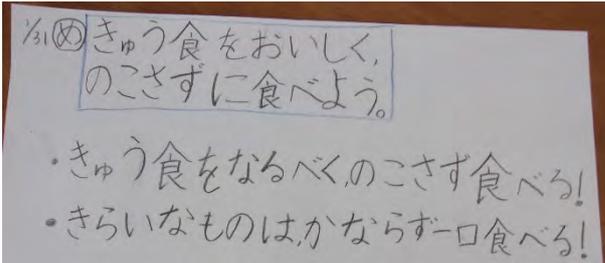
単元名	エンザロ村のかまど（国際理解、国際親善）	
対象校種	<input checked="" type="checkbox"/> 小学校 <input type="checkbox"/> 中学校 <input type="checkbox"/> 高等学校 <input type="checkbox"/> 特別支援学校	道徳
教科の目標	日本人としての自覚や誇りを持ち、進んで他国の人々とつながり、国際親善に努めようとする態度を育てる。	
実践の様子	<p>① アフリカ地域のイメージは予想していたとおり、貧困に対するイメージが強かった。児童の発言の中からも「電気は通っていないのかな。」「学校には行けているのかな。」「インターネット環境は整っているのかな。」という意見が出た。</p>	
	<p>② パーソナルワーク時に「外国の人たちが、日本にない問題で困ったり苦しんだりしているのはどんなことだろう。」と問いかけ、自分の考えに合う17のターゲットを選んで貼り付けることで、関連を一目で分かるようにした。</p>	
	<p>③ パーソナルワークで「貧困」という言葉を調べている様子。知っているようで知らない言葉も多く、SDGsカードの意味を自発的に調べる児童も多く見受けられた。カードに書いてある意味を再確認することで、今後の活動にも円滑に入れた。</p>	
	<p>④ グループワークでは、パーソナルワークで考えたことをもとに、アフリカ地域で考えられることを、カードを使って交流した。どのグループからもおおむね同じカードが出されていたが、意見は異なるものが多く、活発な話し合いが行われた。</p>	

⑤ クラスワークでは「自分たちができることは何か。」を問いかけ、修学旅行や普段の学校生活での経験から、節水や給食の食品ロスを減らすなどが挙げられた。また、ケニアの小学校の生活を調べてみたいという新たな学習意欲も芽生え、社会科の学習にもつながった。



⑥ 授業後の振り返りからは「何不自由なく生活できていることに感謝したい。」という記述が多く目立った。また「自分たちだけでなく、学校でできること、家でできることを考えたい。」という意識の変化も見られた。これらの振り返りは授業内で取り上げられなかったため、この日の帰りの会で共有した。



単元名	給食をおいしく食べよう	
対象校種	<input checked="" type="checkbox"/> 小学校 <input type="checkbox"/> 中学校 <input type="checkbox"/> 高等学校 <input type="checkbox"/> 特別支援学校	学級活動
教科の目標	給食の大切さを知り，給食を残さずに食べようとする態度を養う。	
実践の様子	<p>①SDGsカードのカルタゲームをして内容の理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなカードに触れ，世界の課題について知ることができた。  <p>②2番のカード「飢餓をゼロに」を読み，身近な食について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本や世界には，飢餓に苦しむ人々が8億人。日本の食糧自給率40%。廃棄食品が年650万トンあることを知り，身近な食べ残しについて考えることができた。  <p>③学級での給食の残食について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「野菜やご飯の残りが多い。」給食を毎日2kg残したら，年間400kgの食料ロスがあることに気付くことができた。 <p>④今後の給食や食事で自分できるところを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「嫌いなものを少しでも食べよう」「残さず食べよう」という考えをもつことができた。 	

単元名	感染症に負けないぞ	
対象校種	<input checked="" type="checkbox"/> 小学校 <input type="checkbox"/> 中学校 <input type="checkbox"/> 高等学校 <input type="checkbox"/> 特別支援学校	学級活動
教科の目標	新型コロナウイルス感染症について知ることを通して、それが身の回りの生活や自分の心と体に及ぼす影響に気付いたり、SDGsに触れたりしながら、自分ができる心と体を守る方法をこれまでの学習を生かして考え、進んで行おうとする。	
実践の様子	<p>S・児童 T・教師</p> <p>① 新型コロナウイルス感染症が流行して、自分の生活がどのように変化したか想起する。 T:「コロナが流行って、前と変わったことはあるかな？」 S: ・マスク ・手洗い ・消毒 ・休校 ・遊べない ・前向きで給食を食べる</p> <p>② 「新型コロナウイルス感染症に関わる出来事のカード合わせ」を行い、SDGsの視点に触れる。 S: コロナはいろんなことに関係しているんだな。 S: SDGs は世界のみんが幸せになるための目標なのか。 ・ コロナをやっつけたいな！ S: 体だけじゃなく、心も病気になりそうだね。</p>  <p>③ クイズを通して、新型コロナウイルス感染症について知る。 T:「新型コロナウイルス感染症から心や体を守るためには、どうすればいいのかな？一緒に確認していこう。」</p> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px;"> <p>【ウイルス】</p> <p>① これが新型コロナウイルスである。→×</p> <p>② ものの表面についたウイルスは、時間が経てば壊れてしまう。→○</p> <p>③ 新型コロナウイルスはどこで増えるでしょう。(三択) 一体の中</p> <p>【感染】</p> <p>④ ウイルスがうつる可能性があるのは、熱が出た日からである。→×</p> <p>⑤ 新型コロナウイルスは、一般的に「飛沫」と「接触」でうつる。→○</p> <p>【デマ】</p> <p>⑥ 新型コロナウイルスは熱に弱いので、お湯を飲むとよい。→×</p> <p>【予防】</p> <p>⑦ 手洗いは水だけでも効果がある。→○</p> <p>⑧ 三密とは、「密閉・密集・密接」である。→○</p> </div> <p>・ 答え合わせを行う中で、難しい用語や新型コロナウイルス感染症について補足説明をした。また、この病気についてはまだ分からないことも多いので、今後も最新の情報を確かめるよう児童に促した。</p> <p>④ 学習を振り返り、新型コロナウイルス感染症から心や体を守るためにはどうすればよいか考える。 T:「どうしたら体や心を守れるかな？」 S: ウイルスを体に入れないために、手洗いをしっかりやるよ。 S: マスクから鼻を出さない。 S: ぎゅーぎゅー (密集) しないように、離れる。</p>	

単元名	みらいのためにできること	
対象校種	<input checked="" type="checkbox"/> 小学校 <input type="checkbox"/> 中学校 <input type="checkbox"/> 高等学校 <input type="checkbox"/> 特別支援学校	学級活動
教科の目標	自分たちの生活には、いろいろな問題があることを知り、解決方法などを話し合い、自分に合った解決方法を考え実践することができる。	
実践の様子	<p>① 水はなくなるの？</p> <p>「1分水を流しっぱなしにしたらどのくらい水を使うかな。」などクイズを多く取り入れたことで興味をもって学習に取り組むことができた。</p> <p>DVDでルワンダの小学生が毎日水を汲みに行く手伝いをしていることを知り、驚きの声が上がっていた。</p> <p>振り返りでは、「水のない国もあるんだな。」や「ルワンダは水を大じにつかっていると感じた。」など、初めて知ったことを書いている児童が多かった。</p>	
	<p>② たべものってあたりまえ？</p> <p>「飢餓」や「食品ロス」など新しい言葉をたくさん学習した。YouTubeで「子どもSDGs2」を視聴し、映像でも印象付けた。</p> <p>全員で指を9本立て、そのうちの1人が食べ物が十分に食べられず困っていることを学習した。</p> <p>その日の給食から「食品ロスを減らそう」がクラスの合い言葉になり、給食の残しがかなり減った。</p>	
	<p>③ SDGsって何？</p> <p>前時までに学習したことが何番の絵に関係するか、クイズにした。</p> <p>どのグループも2と6であることを正解し、これらの絵が「SDGs」ということ、「2030年までに世界全体で達成しようとする17の目標」であることを学習した。</p> <p>世界中の色々な世代の人が見て分かるようにするため、目標がイラストで表されていることを知り、イラストからどのような目標であるのかグループで考えた。イラストから想像を膨らませ、協力して一生懸命考えていた。</p> <p>最後にYouTubeで「子どもSDGsベネッセ」を視聴し、SDGsがどのようなものかを楽しく学習することができた。</p>	
	<p>④ SDGsカルタをして、自分の目ひょうを立てよう。</p> <p>前時にできなかったSDGsカルタをして、17の目標を印象付けた。難しい言葉もあるので、カードを読み上げるときは「6安全な水」というように、目標の番号と2年生の児童が分かりやすい言葉で伝えた。</p> <p>目標の番号と絵を一生懸命見て、カードを取る様子が見られた。</p>	

SDGs カルタをして、17個の目標を印象付けた後、自分の目標を考えて画用紙に書いた。自分の目標が17個の目標のうちどれに関係しているか考え、SDGs シートから切り取り、画用紙に貼った。

画用紙の空いた部分に絵を描いたり、SDGs マークを貼ったり、メッセージを書いたり思い思いに表していた。



⑤ ④ 自分の目ひょうをみんなにせん言しよう。

前時に作成した自分の目標を宣言し振り返りを行った。

振り返りでは、

- ・17この目ひょうを2030年までにせかい中のみんなとがんばりたいです。
- ・今自分がせんげんしたことは、ぜったいにまもるけど、友だちがせんげんしたこともまもりたいです。
- ・でんきのことをせんげんした人は多かったけど、やっぱりでんきや水、食りようは大じだと思った。

など書いていた。

今回「SDGs」を知るきっかけを作りたいと考え、学習を計画し進めてきたが、ねらいは達成できたと感じる。

掃除の時間に、児童が「先生 SDGs です」と言って、「電気を消しましょう。」と伝えてきたり、給食の残しを減らすことを「SDGs」と言ったり、それぞれの児童がそれぞれの捉え方をしているのも、2年生の児童には合っているのかなと感じた。

